

直感を信じて行動し 心も体も 生まれ変わった気分

エディター・ライター→ホメオパス
片上敦子さん



【行動を起こすまでのステップ】

2001年12月
ホメオパシーの
セミナーを受け、
感銘を受ける

2002年4月
ホメオパシーの
学校に入学、
4年間通う

2005年3月
学校を卒業。
同年5月、日本の
認定証を取得

2006年7月
イギリスの
国家資格を取得、
自宅で開業

医療関係の取材を重ねてきた片上敦子さん。ホメオパシーという未知の医学を知ったのは、息子の出産以後、持病だった直腸の潰瘍が悪化し、一部を切り取らなければならないと診断されたのがきっかけだった。

「病院を3軒まわったのですが、どこも返事は同じ。でも、たとえ切り取っても再発する可能性もあるし、最悪の場合、人工肛門になると言われ、目の前が真っ暗になりました」

現代医学に限界を感じ、代替療法を探し始めたなかで出会ったのが、ホメオパシーだった。ホメオパシーとは「同種療法」の訳。たとえば、熱が出たときに解熱剤で熱を下げるのではなく、熱を増幅させる植物や鉱物の作用を用いて、体の持つ自然治癒力のスイッチをオンにして症状を押し出すというもの。

「ホメオパシーのセミナーを聞いた瞬間、これで治るかもしれないという希望が湧いたんです。でも、まだ海のものとも山のものともわからないから、学校に通って学びながら試してみようと思ひ、即申し込みました。半年

続けて本物だと思えば続けたいし、ダメならやめたいと思っただけです」

翌年4月、ロイヤルアカデミーオブホメオパシーに入学。4年間をかけて、自分の体を実験台に、学んだことを試していくことに。

「平日も仕事で忙しいのに、休日もほとんどが授業。幼い息子を夫や実家に預けて出かけるのが辛くて、いつも後ろ髪を引かれる思いでした。しかも、ホメオパシーでは治療の過程で必ず好転反応が起こり、39度の熱が1週間続いたこともあれば、腸が痛くて、座ることも眠ることもできないときもありました。」

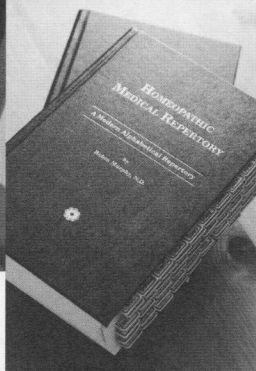
仕事に育児、学校に加えて、病気の闘いもあり、この4年は本当に苦しかったですね。授業も年々高度になっていく。3年生になれば100時間の臨床を経験し、実際に患者に処方しなければならぬ。本場の英国校にも8日間ほど通う必要もある。1000人の同級生は、卒業時には70人に減っていた。

「好転反応が苦しくて、やめたいと思ったことは何度かありました。でも、学び始めて1

カ月で、あ、これだ！ って確信したんです。私の体はこれで治すしかないって。泣き言を言う私を、信じてやり通せ」と、励ましてくれた夫の支えも大きかったですね」

4年後、難治といわれる持病は完治した。自身の体験を機に「このすばらしい医療を多くの人に知ってもらいたい」と、自宅で開業した。保育園のお母さんたちや仕事仲間にとくとくと説いてまわるうち、初めは怪訝な顔をしていた人たちもしだいに関心を示すようになり、少しずつ患者も増えてきた。

「ホメオパシーは（同種の）レメディーをとることで、自分の内面を見つめ直し、心から体へと訴えかけ、治癒に導くもの。私はかつて、人と自分を比べては、もっとうでなければ、と自分にプレッシャーをかけていました。でもホメオパシーに出会い、つまらないこだわりが氷解して、今の自分がOKが出せるようになった。直感を信じて行動し、私は心も体も生まれ変わった気分です。一生をかけてこの仕事に取り組んでいくつもりです」



(上) 植物や鉱物を希釈したホメオパシーのレメディー。その人の症状や性格、生活習慣などをふまえて処方が決まる。(下) レメディーを処方するために必要なホメオパシーの辞書。(左) 1対1で1時間かけて丁寧に問診を行う片上さん。http://www.w17.plala.or.jp/jhc-nerima/

